

平成19年度事後評価結果（平成20年 3月）

[研究開発課題名] 航空機の安全航行のための乱気流レーザーセンシングシステムの開発

[委託機関名] 株式会社メガオプト

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>セラミックレーザー母材という世界に先行する独自技術を渴望される新波長域で製品化する社会基盤性の高い課題である。航空分野への適用を目指した高出力な2 μm波長領域のレーザーを、サブターゲットを段階的に設定し、各数値目標に対しておおむね妥当な成果が得られている。最終目標であるコヒーレントライダーへの適用のためにはさらなる出力の向上が必要であるが、受託者が有する固体レーザー開発の技術的蓄積に基づいて、問題解決の方向性が明示され、目標実現へ向けて十分期待が持てる。また、医療分野や加工分野など、他分野への波及の兆しが既に見えており、今後多方面への展開が期待される。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>セラミックレーザー母材という独自先端技術の実用化として、きわめて有効性の高い事業分野での挑戦といえる。本製品の導入市場は、限られた分野であるが、政府が推進しているu-Japanでの重点施策のひとつである、「安心・安全」に関連するので、市場性が高いと思われる。</p> <p>しかし、空港設備としての本格導入に向けては、空港という公共性の高さから、国土交通省関連の委員会での審議という過程が入るものと思われるため、この方面での動向調査とそれら委員会委員への働きかけが必要と思われる。この種の活動も積極的に行われることを期待したい。</p> <p>並行して、空港の利用者からの導入に向けた支持を得る観点からも、本製品（システム）の有効性を広くアピールする活動も必要である。この方面の活動も期待したい。</p> <p>総合的には、先進技術を活用して、新たな市場を開拓して、かつ社会性の高い製品であり、一定の評価が得られ、収益納付が期待できるとと思われる。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。